

奈良県景観サポーターのならやま実習

10月2日、奈良県景観サポーターの受講者17名と県より6名のみなさんが、ならやまへ景観づくり活動体験に来られました。



既に「景観の概念」を学ばれ、第3回基礎講座として当会の活動に参加です。



午前中は里山林の景観整備の間伐作業で、4班に分かれ孟宗竹や雑木の伐採、解体の体験でした。初めての方もおられ里山での伐採の楽しさ・難しさや危険回避行動を熱心に実習してもらいました。

昼食時には、名物の味噌汁とスペシャルメニューのサンマの塩焼きに舌鼓をうって頂きました。午後からは景観活動についての意見交換会となりました。川井、阿部顧問に当会の発足から将来の夢まで大いに語って頂き、会運営の実務、資金繰り、準備、指導など多くの質疑がありました。新しく組織を立ち上げられた方もおられ皆さんに大変興味を持っていただけたと思います。



午後からは雨模様ため、3つ目のポイントであった、ならやまを散策しながら、里山整備状況や考え方についての説明ができなかったのが心残りでした。機会があれば木曜日にお出で下さいと声掛けをしました。

景観サポーターのみなさまの研修成果が生かされ、今後奈良県下各地域で景観づくりや推進役の活動が広がることを期待しています。

(事務局：塩本勝也)

花とみどりの楽校 (さとやま編)

さわやかな秋晴れの下、講座受講生18名来訪、生駒市役所担当者や運営委員スタッフと合流し[ならやまフィールド]で、里山の現地視察と間伐体験実習をされました。

「奈良・人と自然の会」スタッフは、山班を主体とした10名と会長・副会長が出迎え、オリエンテーション。10:00より第5地区に向かいスギ、ヒノキ間伐、他の作業体験を実施しました。



現地では杉山総括リーダーの解説・安全注意と共に、スギ(径30cm)の伐倒実演を大澤

リーダーが行い、その後3班に分かれ作業に入りました。細い木・太い木、其々の活用を考えた「玉切り」指導がなされ、皮剥ぎ、枝払い等の実習でした。「約20年超え」のスギは、1.2m~1.3mにもなる長い材ですから地響きを立てて倒されず。混みあっていたり、つる植物が巻きついていたり、素直にドーンと倒れるとは限りません。各班リーダーの指示に従って事故なく終了できました。横に枝を出せず、スギ・ヒノキに挟まれひょろりと伸びていたヤマザクラ(?)は、周囲に空



間ができ、全身で喜んでいるように見えました。今回は平地ではありましたが、足元の雑木や枯れ枝の除去

作業があり、ややきつめかな?と思う内容でしたが、皆さん其々懸命な作業、それでいて生き生きとされていたのは印象的でした。薪割り機やチルホールが見たいと要望があり、急遽実演、その威力にびっくりされていました。整備された観察路を周遊し、コーヒータイムで終了、満足の研修になりました。直接ご協力いただいたスタッフ、他の皆さん、そして日ごろの会員の皆さんの活動の積み重ねが好評を得たものと、紙面を借りまして感謝・御礼申し上げます。(阿部和生)